

- Natural Sci., 27. (印刷中).  
 加藤一靖, 佐々木芳春, 岡村敏夫, 阿部能明, 1972: 秋田レーダによる冬期の対流性エコーについて, 昭和47年度東北地方調査研究会資料, 秋田・青森・岩手地区, 1-20.  
 List, R., 1958: Kennzeichen atmosphärischer Eisparkitkeln, 1. Teil. Graupeln als Wachstumszentren von Hagelkörnern, Z. Angew. Math. Phys., 9 A, 180-192.  
 —and R.S. Schemenauer, 1971: Free-fall behavior of planar snow crystals, conical graupel and small hail, J. Atmos. Sci., 28, 110-115.  
 Macklin, W.C., 1962: The density and structure of ice formed by accretion, Quart. J. Roy. Met. Soc., 88, 30-50.  
 Magono, C., 1953: On the growth of snow flake and graupel, Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ., Sec. 1, No. 2, 18-40.  
 —, 1954: On the falling velocity of solid precipitation elements, Sci. Rep. Yokohama Nat. Univ., Sec. 1, No. 3, 33-40.  
 丸山晴久, 浜 昊一, 1954: 雨滴や雪片の連続観測, 天気, 1, 50-52.  
 Maruyama, H., 1968: On conical graupel and its density, Pap. Met. Geophys., 19, 101-108.  
 Nakaya, U. and T. Terada, Jr., 1935: Simultaneous observations of the mass, falling velocity and form of individual snow crystals, J. Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ., Ser. II, 1, 191-200.  
 —, Y. Sekido and M. Tada, 1935: Notes on irregular snow crystals and snow pellets, J. Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ., Ser. II, 1, 215-226.  
 岡村敏夫, 1971: 冬期観測される比較的雲頂の低い積雲系の雲について, 昭和46年度東北地方調査研究会資料, 1-10.  
 高橋喜平, 1951: 霰と霰状雪について, 雪氷, 12, 170-171.



力武 常次著

地震予知論入門

共立全書, 共立出版株式会社, 1976, 212頁, 1,300円.

地震予知は地震国住民の悲願である。最近における日本の地震予知研究計画は、1960年代の初めごろ近代科学の粋を集めて再発足した。本書の著者はもともと地球電磁気学の権威であったが、同計画の発足に際して東大地震研究所教授としてその頭初から中枢に参画し発展に参与してきた。最近アメリカ・コロラド大学環境科学研究所にて地震予知研究に従事し帰国後東京工大に移られたが、この頃から地震予知に関する専門書・教養書を多数執筆された。本書はこれらの著書をふまえ、さらに最近の進歩も取り入れて専門的立場への入門書として要約したものである。

多方面にわたる地震予知関連要素、地殻変動、地震活動、地震波速度変化、地磁気・地電流、活断層・活構造、重力・地下水などの観測・研究および日本、中国、

アメリカ、ソ連等におけるその組織・態勢など著者の豊富な知識を駆使して要領よくまとめ、大変わかり易くなっている。

また岩石破壊、高ストレス下の物性などの室内実験、ディラタンシー説、プレートテクトニクス、周期説、地殻歪限界と地震発生確率などの地震予知理論に関する研究にもかなりの頁を割き、地震コントロール、地震警報等社会問題に言及してしめくくっている。ここではプレートの動きから地殻歪の蓄積によっておこる地震発生確率の算出や、各種の地震先行現象をまとめてその先行現象から地震がおこるまでの時間と地震の規模との関係など著者の最近の研究の傾向がうかがえる。

しかし全体としては地震予知関係各分野についてまんべんなく解説し、一読すれば専門的知識の概略がつかめるよう意図されている。地震予知に関しては昔から諸種の言い伝えがあり、この著者も別の教養書では詳しく書いているが、本書では物理学に立脚したもののみについて述べている。たとえば、動物や魚が何かの地震先行現象に感じるとしても、その刺激するシグナルそのものを物理的に捕捉して地震予知を行なうのが本筋だと思うという著者の考えによるものであろう。

(柳原 一夫)

成因として、海底谷の影響をあげている学者もある。

(松本 次男)

(696ページのつづき)

ことが報告されている。上述のほかに、Freak wave の